

「くらいなら」の意味用法について

趙 妍姍

キーワード：「くらいなら」、程度、スケール、比較、評価

要旨

本稿では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を用いて、形式名詞「くらい」と条件表現「なら」が複合した「くらいなら」の用例を分類した。「くらいなら」には大きく〈程度〉〈比較〉の二種の用法があり、それぞれ「予想範囲内/予想範囲外」、「許容範囲内/許容範囲外」の二つに細分することができる。また、「くらいなら」における「くらい」は、形式的には形式名詞であり、用言句を名詞化する機能を持つと同時に、意味的には、それぞれの用法において、事態の〈程度〉を述べるために用いられている。「くらい」で事態に程度性を付与することが、事態に対する評価的な意味が生み出されることにつながる。

1. はじめに

形式名詞「くらい」と条件表現「なら」が複合した「くらいなら」は、名詞(例 1)、数量詞(例 2)、指示代名詞(例 3)、動詞(例 4、例 5)に接続する¹。

- (1) タクシー代くらいなら渡してやる。 (大沢在昌『亡命者』)
- (2) 50万くらいなら貯金持ってます。 (村田喜代子『人が見たら蛙に化れ』)
- (3) それくらいなら、まだいいのですが、親が勝手にクラブを代えてしまったりする。 (五明みさ子『女は女が強くなる』)
- (4) お昼ご飯をいっしょに食べるくらいなら、なんでもないわ。
(岩田洋季『護くんに女神の祝福を!』)
- (5) わしはあんな建物で暮らすくらいなら、野宿するぞ。
(柴田よしき『宙都』)

名詞、数量詞、指示代名詞に接続する「くらいなら」の「くらい」は、「程度」に置

¹ 用例は、先行研究からの引用部分を除き、国立国語研究所が開発した「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)から検索したものである。用例中の下線はすべて本論の筆者による。

き換えられる。

- (6) タクシー代程度なら渡してやる。
- (7) 50万程度なら貯金持ってます。
- (8) その程度なら、まだいいのですが、親が勝手にクラブを代えてしまったりする。

動詞に接続する「くらいなら」も、(4)の「くらい」は「程度(のこと)」に置き換えられるが(例9)、(5)の「くらい」は「程度(のこと)」に置き換えられない(例10a)。(5)の「くらいなら」は比較の「より」と置き換えられる(例10b)。

- (9) お昼ご飯をいっしょに食べる程度(のこと)なら、なんでもないわ。
- (10) a. *わしはあんな建物で暮らす程度(のこと)なら、野宿するぞ。
b. わしはあんな建物で暮らすより、野宿するぞ。

このことは、(4)の「くらいなら」は名詞、数量詞、指示代名詞に接続する「くらいなら」と類似の性質を持つが、(5)の「くらいなら」はそれとは異なる性質を持つことを示している。

本稿では、動詞に接続する「くらいなら」を考察対象とし、その意味用法について考察する。第2節では、「くらいなら」に関する先行研究について概観する。第3節では、「くらいなら」の使用状況を概観する。第4節では、動詞に接続する「くらいなら」の用法を分類する。第5節では、「くらいなら」における「くらい」の役割について考える。第6節はまとめである。

2. 先行研究

「くらいなら」に関する研究には、田中(2010)、前田(2015)がある。田中(2010)は、日本語の「複合辞」を扱った総合的な研究であり、主に接続表現(副詞節)と文末表現の二つを取り上げ、詳しい分析を行っている。その第4部第2章「心的表出と評価判断のモダリティ」では、「X くらいなら、Y のほうがましだ」という形式について、以下のような例をあげている。これらはいずれも「より」と置き換えることができ、冒頭の(5)と同じタイプである。

- (11) あいつと一緒に仕事をするくらいなら、別の会社に移ったほうがまだましだ。
- (12) あの人にお金を貸すくらいなら、ドブに捨てたほうがましだ。
- (13) 家に帰って家内に小言を言われるくらいなら、会社にいたほうがよっぽど気楽だ。

- (14) 高額を払って修理するくらいなら、新しく買い替えたほうが得だよ。
- (15) テレビを見ている時間があるくらいなら、さっさと宿題をきなさい。
- (16) 負けて悔しがるくらいなら、どうして頑張らなかったんだ。

(以上, 田中 2010 : 401 - 402)

また、田中(2010)では、上の例について次のように述べているが、断片的な指摘にとどまっている。

「X より Y だ」のような一種の比較選択表現で、X も Y も両方よくないが、X よりもまだしも Y のほうがいいことを表す。X は聞き手も知っている事態があげられ、話し手も聞き手もその実現を望んでいない。X を強く拒絶する気持ちを表す。Y の文頭に「いっそ」「さっさと」「むしろ」「よほど」などの副詞がくることもある。一種の迷惑的な事態の回避を意図し、他者への働きかけのほか自戒の念で用いられることもある。

(田中 2010 : 401 - 402)

前田(2015)は講演資料であるが、条件を表す「なら」が形式名詞と複合した接続形式「のなら」「くらいなら」を中心に、現代日本語の複合的条件形式について考察している。「くらいなら」については、四つのタイプに分け、次のような説明と例文が挙げられている(例は典型例のみ挙げる)。田中(2010)で触れられている「くらいなら」の用法は、このうち用法①、②に相当する。田中(2010)と同様、事態の〈望ましさ〉に言及されている点が注目される。

① X の実現を望まない

本来なら望ましさの低い Y (評価・意志・願望) だが、X と比べれば良いという判断を提示する。

- (17) 自由時間が減るくらいなら収入は現在のままでよい。

(平成 5 年版経済白書)

- (18) 剣沢小屋で遭難した土田等と変則的な山行をつづけて以来、加藤は山における孤独を自分のものとしていた。ひとりで歩くということに意味があつて、他人と山へ一緒に登るくらいなら山へ行かないほうが良いという気持ちになっていた。

(『孤高の人』)

② Y の実現を望む

X は「望ましくない事態」ではなくむしろ「良い事態(状態)」であるが、それよ

りも望む事態が Y に示されるため、Y の実現をより強く望む気持ちが強く表される。

- (19) 箆笥を買えばよかったです、そう云うお金があるくらいなら少しでも余計な衣裳を買い出し、それに私たちの趣味として、何もそんなに大切に保存する必要はない。 (『痴人の愛』)
- (20) 「そんなお金があるくらいなら、なぜもっとちゃんとした砂防林をつくらないんだ？」 (『砂の女』)

③ 反語

望ましい事態 X(可能表現)から推論される望ましい事態 Y が実現していない(=反事実)ことが文脈に示されているため、X の実現も不可能であることが強く示される。

- (21) たとえば、大人はしばしば子どもに向かって、「泣いていたってわからぬ」、「泣かずにわけを言ってごらん」などという。しかし、じつはあれは、言えないからこそ泣いているのだ。だれだって自由に思っていることが言えるくらいなら、物好きに泣いてみる者など、あろうはずはないのである。
(『まなざしの人間関係』)
- (22) 「ほなら兄さん、私の軀を切り開いて、兄さん得意の手術をして頂かして」「それが出来るくらいなら、お前をこのままにおくものか」
(『華岡清州の妻』)

④ 程度(説明なしで用例のみ)

- (23) 「刺したんだろう。さしは刃物のことだ。やっばとも言う。多摩学習院に入るくらいなら、こんなことくらい知っておいた方がいいな。刃物は剃刀だったのかい。それとも日本刀だったのかい？」
(『冬の旅』)
- (24) 「俺、映画とられましてん、裁判所出る時、ニュース映画うつされてん、どないにうつてるやろうか」気楽なことをいう。「なにしよってん」ニュースにとられるくらいなら、よほどの罪かと高志がきくと「井戸のポンプ盗みましてん」
(『火垂るの墓』)

(前田 2015 : 14-15)

前田(2015)は、講演資料であるため、この四つの用法がどのような関係にあるかについて詳しくは述べられていないが、①②③の「くらいなら」は、「より」と言い換えられる点で冒頭の例(5)と同じタイプである。④の「くらいなら」は(23')(24')が示すように、「より」とは言い換えられないので、例(5)とは異なるが、「程度(のこと)なら」よりは「ほどの…なら」と言い換えたほうがもとの文の意味に近いという点で、冒頭の例(4)とも異なる。

- (23') a. *多摩学習院に入るより、こんなことくらい知っておいた方がいいな。
 b. 多摩学習院に入る程度なら、こんなことくらい知っておいた方がいいな。
 c. 多摩学習院に入るほどの頭があるなら、こんなことくらい知っておいた方がいいな。
- (24') a. *「なにしょってん」ニュースにとられるより、よほどの罪かと高志がきくと「井戸のポンプ盗みましてん」
 b. 「なにしょってん」ニュースにとられる程度なら、よほどの罪かと高志がきくと「井戸のポンプ盗みましてん」
 c. 「なにしょってん」ニュースにとられるほどのことなら、よほどの罪かと高志がきくと「井戸のポンプ盗みましてん」

以下では、これらの点を参考にしつつ、「くらいなら」の意味用法について考察する。

3. 「くらいなら」の使用状況

考察にあたっては、国立国語研究所が開発した「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)の検索ツール「中納言」を用いて、「くらいなら」をキーワードとする長単位検索で全数調査を行った。「くらいなら」の総用例数は625例である。その前接形式の内訳は表1のとおりである。

表1 「くらいなら」の前接形式

品詞	用例数(割合)
名詞	84 (13.4%)
数量詞	91 (14.6%)
指示代名詞	74 (11.8%)
動詞	362 (57.9%)
形容詞	5 (0.8%)
副詞	9 (1.4%)
計	625 (100%)

動詞に接続する「くらいなら」の用例は362例であり、半数以上を占める。本稿では、これらの用例を、田中(2010)、前田(2015)の〈望ましさ〉という観点を参考にして、大きく次の二つに分類する。

- ① 〈程度〉：「程度（のこと）なら」「ほどの…なら」に言い換えられる「くらいなら」。
- ② 〈比較〉：「より」に言い換えられる「くらいなら」。

動詞に接続する「くらいなら」の用例（362例）のうち、〈程度〉の例は122例、〈比較〉の例は240例であった。〈比較〉の用例が6割以上を占める点が注目される。

4. 「くらいなら」の用法

4.1 〈程度〉〈比較〉の細分類

本節では、前節で述べた〈程度〉、〈比較〉の用法について簡単に説明する。まず、それぞれの例を挙げる。

〈程度〉

- (25) 絢子は肩をすくめて、「まあいいわ」エメレンツィアが顔をぱっと輝かせる。
「ほ、本当ですかっ?」「お昼ご飯をいっしょに食べるくらいなら、なんでもないわ」「い…、意外です。護のこととなると思考回路が吹っ飛ぶあなたのことですから、私はてっきり、ドイツへ帰ってビールでもあおってなさいこのネグリジェ痴女、とか言われるものとばかり！」
(岩田洋季『護くんは女神の祝福を!』)

- (26) 先生がわからないくらいなら、学部生である私にわかるはずがない²。
(筆者作例)

〈比較〉

- (27) 「新築だと病気になるみたいですよ」「当然だな。わしはあんな建物で暮らすくらいなら、野宿するぞ」
(柴田よしき『宙都』)

- (28) 「ごめんごめんごめんごめんごめん」謝ろうなんて殊勝な気持ちになることは滅多に無いから、今のうちにできるだけ沢山、謝っておこうと思ったのだ。謝るくらいなら改めればいいのに。それができないから謝る。
(堀田あけみ『思い出にならない』)

² 前田(2015)が「④程度」とする例は(26)と同じタイプに属するが、「中納言」から抽出した例のなかに、このタイプの例は見られなかった。実際にはこのような例は存在するため、本稿では適宜作例も用いて考察する。

(25)(26)は〈程度〉の例であり、それぞれ「お昼ご飯をいっしょに食べる程度なら、なんでもないわ」、「先生がわからないほどのことなら、私にわかるはずがない」と言い換えられる。

(25)は、「お昼ご飯をいっしょに食べる」という事態は、話し手の予想範囲内であり、その程度のことであれば、特にたいしたことではなく簡単にできる、ということを述べている。

一方、(26)では、「先生がわからない」という事態は、話し手の予想範囲外のことである。この場合、話し手はもともと「先生がわからない」という程度にまで達すると思っていなかったが、実際はそこまでの程度に達した。その程度にまで達したら、当然私にわかるはずがない、ということが述べられている。(25)は程度が低いことを表しているのに対して、(26)は高い程度への到達のイメージが強い。

(27)(28)は〈比較〉の例であり、それぞれ「わしはあんな建物で暮らすより野宿するぞ」、「謝るより改めればいいのに」と言い換えられる。

(27)では、「あんな建物で暮らす」という選択肢も「野宿する」という選択肢も話し手の許容範囲外のこと（望ましくないこと）であるが、あえて優先順位をつけるとすれば「野宿する」ことを選択する、ということを述べている。

一方、(28)では、「謝る」ことも「改める」ことも話し手の許容範囲内のことである。話し手にとっては、「謝る」と「改める」ことは難易度においてそれほど変わらない。話し手は「謝る」までするなら、むしろさらに一歩進んで「改める」ほうがいい（望ましい）と思っている。

このように、〈程度〉、〈比較〉は、それぞれ「予想範囲内/予想範囲外」、「許容範囲内/許容範囲外」の二つに細分することができる。まとめれば、図1のようになる。

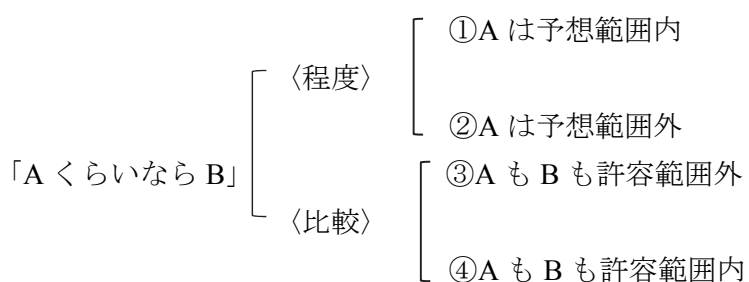


図1 「くらいなら」の用法

田中(2010)で触れられている「くらいなら」の用法は、図1の用法③に相当する。前田(2015)の「①Xの実現を望まない」、「②Yの実現を望む」、「③反語」、「④程度」という四つの用法は、それぞれ図1の用法③、用法④、用法④、用法②に相当する。

今回収集した例をみると、それぞれの用法には次のような構文的特徴が見られる。

表2 「くらいなら」の構文的特徴

用法	下位分類	後節末に現れる表現	伴う語
〈程度〉	①予想範囲内	なんでもない 必要はない/問題はない	特に/まだ
	②予想範囲外	推量表現「だろう/はずがない」	まして
〈比較〉	③許容範囲外	方/ほうが…	むしろ/最初から・初めから
	④許容範囲内	のに/過去の打ち消し表現「…しなかったのか」	いっそのこと/ なんで・なぜ

以上、「くらいなら」の四つの用法について簡単に説明した。以下、4.2節で〈程度〉用法、4.3節で〈比較〉用法について詳しくみていく。

4.2 〈程度〉用法

先に見たように、〈程度〉用法は、前件Aの事態が話し手の予想範囲内か否かということから、「予想範囲内」と「予想範囲外」の二つに分けられる。程度が予想範囲内か予想範囲外かは、後件との意味関係によって決まる。

① 〈程度：予想範囲内〉

まず、〈程度：予想範囲内〉の「くらいなら」について考察する。次の例をみよう。

- (29) お昼ご飯をいっしょに食べるくらいなら、なんでもないわ。(= (4))
(岩田洋季『護くんに女神の祝福を！』)
- (30) 月餅が食べれないくらいなら、まだ我慢もできよう。しかし、ミソやトウフや納豆が食べれなくなるほど上がったら、どうするのだろうか？
(Yahoo!ブログ)
- (31) でもほとんどの日本人は、離婚したら完全に縁は切れてしまうようですね。結局、友だちでいられるくらいなら、別れる必要はない、ということです。「女性の学歴が高くなったことが、今日の離婚の根本的な原因じゃないかな」と、工学コンサルタントでもある会社社長が低い声でつぶやいた。
(ジェーン・コンドン『奇跡の国ニッポン' 80年代日本の女性たち』)
- (32) 「それでは、殿下から直々に、津野田少佐に中止を命じられたらいかがですか」「それができるくらいなら貴官を呼びはしない。津野田はいま、作戦指導のため中支に派遣されている」津野田の仲間について三笠宮はなにも聞いていないが、彼の不在中に、他の仲間によってことが決行される事態も考えられた。
(吉松安弘『東条英機暗殺の夏』)

これらの例の「くらいなら」は、「程度（のこと）なら」と置き換えられ、前件の事態が話し手の予想範囲内にあることを表す。(29)、(30)の「くらいなら」は、「くらいは」と置き換えることができるので、この「なら」は「彼のことなら知っている」のような主題の「なら」であると考えられる。一方、(31)、(32)の「くらいなら」は「もし…なら」という条件を表す。

- (29') お昼ご飯をいっしょに食べるくらいは、なんでもないわ。
(30') 月餅が食べれないくらいは、まだ我慢もできよう。
(31') もし友だちでいられるくらいなら、別れる必要はない。
(32') もしそれができるくらいなら貴官を呼びはしない。

〈程度：予想範囲内〉の「くらいなら」の「くらい」は、「程度」と同じく、事態が持つ程度的な属性を述べるために用いられている。(30)のように、後件に許容範囲内にあることを表す「まだ」を用いたり、「お昼ご飯をいっしょに食べるくらいなら、特になんでもないわ」、「友だちでいられるくらいなら、特に別れる必要はない」、「それができるくらいなら何も貴官を呼びはしない」のように、「特に」、「何も」を補って解釈したりできる。

予想範囲内という意味を表す点で、(29)-(32)の「くらいなら」は、第1節で挙げた名詞、数量詞に接続する「タクシー代くらいなら渡してやる」(=(1))、「50万くらいなら貯金持ってます」(=(2))の「くらいなら」と似たところがある。このことから、〈程度：予想範囲内〉の「くらいなら」は、名詞、数量詞に接続する「くらいなら」と同じものと考えることができる³。

類似の例として次のような例がある。

- (33) たまに外出して遅くなるくらいなら問題ないと思います。
(Yahoo!知恵袋)
(34) 近くを通ったついでに見るくらいならできると思いますよ。
(Yahoo!知恵袋)

³ 〈程度〉用法の「くらいなら」のうち、〈程度：予想範囲内〉の用法の意味は、沼田(1986)がとりたて詞(従来副助詞・係助詞に分類された語のうち、とりたての機能を持つもの)とする「くらい」と似ている。

A. 君はビールも何も、酒は一切飲まないだろう。

B. いや、ビールくらい飲むよ。(沼田 1986 : 209)

この例では、「ビールを飲む」という事態は、程度が低いものとして捉えられているが、これは〈程度：予想範囲内〉の「くらいなら」の前件が程度が低いものとして捉えられているのと似ている。形式名詞「くらい」ととりたて詞「くらい」の関係は今後検討すべき課題である。

- (35) というよりも、それができるくらいなら藩札は発行しない。
(童門冬二 『ニッポンの創業者』)
- (36) 食事中にワインをグラスに一、二杯飲むくらいなら、頭がぼんやりする危険はない。
(エマダーシー 『復讐は甘美すぎて』)
- (37) マナーモードにしてなかったくらいならまだ許せますが…さすがに通話はだめでしょう。
(Yahoo!ブログ)
- (38) 文章書くくらいなら、何とかなりそうだからア…
(丸茂ジュン 『耽美小説の書き方』)
- (39) それに、一万円くらいですむクラブで女装して楽しんでるくらいなら、まあいいか、といった感じなんですね。
(岡野あつこ 『離婚して幸せになる人不幸になる人』)
- (40) 遊びに来るくらいならいいけど、ずっといちゃだめなんだ。
(金原瑞人 『青空のむこう』)

② 〈程度：予想範囲外〉

次に、〈程度：予想範囲外〉の「くらいなら」について考察する。次の例をみよう。

- (41) 先生がわからないくらいなら、学部生である私にわかるはずがない。(= (26))
- (42) 自転車を買えないくらいなら、車なんて買えないだろう。
(筆者作例)

(41)(42)は、「先生がわからないほどのことなら、学部生である私にわかるはずがない」、「自転車を買えないほどのことなら、車なんて買えないだろう」と置き換えられる。また、次のように、「まして」を補って解釈することができる。

- (41') 先生がわからないくらいなら、まして学部生である私にわかるはずがない。
- (42') 自転車を買えないくらいなら、まして車なんて買えないだろう。

(41)では、話し手は、難しさが「先生がわからない」という程度にまで達するとは予想していなかったが、予想に反して実際はそこまでのレベルに達した。「先生がわからない」という程度にまで達したら、先生よりも知識のない「学部生である私」は当然「わかるはずがない」ということになる。

(42)も、話し手は、持っているお金の少なさが「自転車は買える」という程度にとどまると思っていたが、実際は話し手の予想に反して、「自転車さえ買えない」という程度にまで達した。そのレベルにまで達したら、自転車よりも高価な「車」は当然「買え

ない」ということになる。

この種の「くらいなら」は、「これほどまでの程度に達しているのなら」という到達のイメージが強い。「なら」は条件を表し、「くらい」はその場で問題にされていることから（(41)では「難しさ」、(42)では「持っているお金の少なさ」）の程度を表す。

- (43) （難しさが）先生がわからないくらいなら、まして学部生である私にわかるはずがない。
- (44) （持っているお金の少なさ）自転車を買えないくらいなら、まして車なんて買えないだろう。

このタイプの「くらいなら」は、前節と後節において意味が似ているものの繰り返し（共通項）が多く、後節には「はずがない」「だろう」のようなモダリティ表現が現れる。

前田(2015)が「④程度」とする例も、前件が話し手の予想外のことを表す（程度：予想範囲外）の例である。この場合も前件に「まして」の意味がある。

- (45) （それほどの学校を出ていなくても、こんなことは知っている。まして）多摩学習院に入るくらいなら、こんなことくらい知っておいた方がいいな。
- (46) （ちょっとした罪でもニュースになる。まして）「なにしよってん」ニュースにとられるくらいなら、よほどの罪かと高志がきくと「井戸のポンプ盗みましてん」

上の(41)、(42)の例もこのような解釈が可能である。

- (47) （大学院生がわからなければ、学部生である私にはわからない。まして）先生がわからないくらいなら、学部生である私にわかるはずがない。
- (48) （バイクを買えなければ、車は買えない。まして）自転車を買えないくらいなら、車なんて買えないだろう。

類似の例として次のような例がある。いずれも前件または後件に「まして」を補って解釈できる⁴。

⁴（程度：予想範囲外）の「くらい」の意味は、奥津(1986)が形式副詞（副詞ではあるが非自立的で、補足成分をとって副詞句を成すもの）とする「くらい」と似ている。

・最近は何のデパートもほとんどひっきりなしというくらい特売をやっている。

（奥津 1986：66）

この例では、「これほどまでの程度に達している」という到達のイメージが強い。形式名詞「くらい」と形式副詞「くらい」との関係についても今後検討する必要がある。

- (49) 田中さんでも怖がるくらいなら、私だったら泣いてしまうだろう。
 (50) ここが寒いと感じるくらいなら、北海道へ行ったら、びっくりするだろう。
 (51) こんな簡単な問題が解けないくらいなら、難しい問題が解けるはずがない。
 (筆者作例)

4.3 〈比較〉用法

本節では、「くらいなら」の〈比較〉用法についてみる。〈比較〉用法は、前件 A と後件 B の事態が話し手の許容範囲内か否かということから、〈比較：許容範囲外〉と〈比較：許容範囲内〉の二つに分けられる。

③ 〈比較：許容範囲外〉

まず、〈比較：許容範囲外〉の「くらいなら」についてみよう。

- (52) わしはあんな建物で暮らすくらいなら、野宿するぞ。(= (5))
 (柴田よしき『宙都』)

この種の「くらいなら」は、「わしはあんな建物で暮らすより、野宿するぞ」のように「より」と置き換えることができる。また、「わしはあんな建物で暮らすくらいなら、(むしろ/いっそ)野宿する(ほうがいい/ほうがました)」のように、後件に副詞「むしろ/いっそ」、「ほうがいい/ほうがました」のような表現が現れることが多い。

今回収集した〈比較〉の用例(240例)を調べたところ、そのうち、後節末に「方/ほうが…」という比較形式が現れる用例は123例であり、半数を占める。その内訳は次の表3に示したとおりである。

表3 後節に「方/ほうが」が現れる用例

出現形	用例数
方/ほうが(全然/ずっと/はるかに/百倍/まだ)まし(マシ/増し)だ(だった/です/じゃ/で、)	66
方/ほうが(ずっと/よっぽど)いい(イイ/よい/良い/よかった)	33
その他(例えば「方が数倍楽です」「方が断然お得です」…)	24
合計	123

(52)では次のことが述べられている。通常は「建物で暮らす」ことは許容できるが、「野宿する」ことは許容範囲外である。つまり、「野宿する」よりは「建物で暮らす」ほうを選ぶ(建物で暮らす>野宿する)。しかし、「あんな建物」の場合は事情が変わる。話し手にとって「あんな建物」は最悪(許容範囲外)であり、通常とは逆の「野宿する

>あんな建物で暮らす」という優先順位になる。「通常だったらこうなる。しかし、与えられた条件のもとではそれが否定される」ということである。

このような意味自体は、「くらい」がなくても「なら」だけで表せる。

(52') わしはあんな建物で暮らすなら、(むしろ/いっそ)野宿するぞ。

この文を論理式で書くと次のようになる。

(53) あんな建物で暮らす→野宿する
= ~あんな建物で暮らす∨野宿する
= ~ (あんな建物で暮らす∧~野宿する)

通常は「建物で暮らし、野宿しない (建物で暮らす∧~野宿する)」は許容される。しかし、話し手にとって最悪の「あんな建物」の場合はそれが否定され、「~ (あんな建物で暮らす∧~野宿する)」すなわち「あんな建物で暮らす→野宿する」となる。これが(52')で述べていることである。(52)のように「くらいなら」の形で条件を述べた場合は、「くらい」は「あんな建物に暮らす」ことに対する否定的な評価を述べるために用いられている。

次の例についても同じである。

(54) 深夜の勉強をするくらいなら、眠ったほうがいい。
(陰山英男『本当の学力をつける本』)

(54)は「深夜の勉強をするより、(むしろ/いっそ)眠ったほうがいい」と置き換えられる。この文は次のことを述べている。学力をつけるためには、通常は「眠らずに深夜の勉強をする」(深夜の勉強をする∧~眠る)を選ぶ。しかし、話し手にとっては「深夜の勉強をする」ことは最悪(許容範囲外)であり、通常の「深夜の勉強をする∧~眠る」は否定され、むしろ「~ (深夜の勉強をする∧~眠る)」=「深夜の勉強をする→眠る」となる。「くらい」は「深夜の勉強をする」ことに対する否定的評価を述べるために用いられている。

類似の例として次のような例がある。

(55) こないなんてお金をどぶに捨てるようなもんだぞ☆そーいえば「彼にお金を貸すくらいなら海に捨てた方がマシだ」ってゆー例文あったなあ・・・。
(Yahoo!ブログ)

(56) 「私は禁止令に断固として反対します。この自由貨幣活動を停止するくらい

なら、むしろ投獄された方がいいくらいです」

(森野栄一『エンデの遺言』)

- (57) 「どうするの？故郷へ帰る？」と、聡子が訊くと、「いいえ」と、きっぱり首を振り、「帰って、あの常吉の妻になるくらいなら、いっそ喉を突いて死にます」

(赤川次郎『逃げこんだ花嫁』)

- (58) 結局の話、くだらない小説を出して紙屑扱いされるくらいなら、最初から何も書かないほうがましだと思ってしまうのである。

(スティーブン・ドビンズ『奇妙な人生』)

- (59) 「あたしゃあの人にまっとうな人間にしてもらったんだ。同じ馬鹿を繰り返すくらいなら、喉を突き破って死んでやる」「ほう、出来るかな」英一郎は薄笑いを浮かべて一歩踏み出した。

(安部龍太郎『黄金海流』)

- (60) 「基本的にはそうです。しかし、ノンフィクションは取材対象を擁護するという立場で書かれるべきではないと私は考えます。そんな提灯ルポを書くくらいなら私はノンフィクション作家をさっさとやめてますよ。そんな作品は誰も望んではいないし、だからこそ私は綿密すぎるくらい綿密な取材をさせていただきたいんです。

(平賀元気『キリスト屋』)

- (61) 親が子どもに英語を語りかけていくとき、発音を障壁とみなしているために子どもに向かって英語で堂々と話をするのができないとしましょう。それは、「自分の子どもが自分の子どもが日本語なまりの発音で英語を話すくらいなら、英語を話さないほうがましだ」あるいは「パーフェクトでない英語を話すくらいなら、英語など話さないほうがましだ」という無言のメッセージを、知らず知らずのうちに子どもたちに与えていることになるのです。

(市川力『子どもに英語を教えるな!』)

- (62) ムスリムは、非人道的な扱いや拷問の可能性のある非公開の裁判や処刑を容認することはできない。ムスリムのすぐれた裁判官は、誤って罪のない人を罰するくらいなら、むしろ犯罪者を処罰しそこねるほうがよいと考える。イスラーム法は野蛮か？

(ルカイヤ・ワリス マクスウド『イスラームを知る 32章』)

④ 〈比較：許容範囲内〉

次に、〈比較：許容範囲内〉の「くらいなら」についてみる。

- (63) 「ごめんごめんごめんごめんごめん」謝ろうなんて殊勝な気持ちになること

は滅多に無いから、今のうちにできるだけ沢山、謝っておこうと思ったのだ。
謝るくらいなら改めればいいのに。(= (28))

(堀田あけみ『思い出にならない』)

- (64) いらぬおまけが入っているくらいなら、送料サービスなど還元の方がいいのに、と思います。(Yahoo!知恵袋)

これらの「くらいなら」は「より」と言い換えられる。また、「謝るくらいなら(いっそのこと)改めればいいのに」、「いらぬおまけが入っているくらいなら、(いっそのこと)送料サービスなど還元の方がいいのに」のように、後件 B の文頭に「いっそのこと」を挿入することができる。この場合、前件 A は既実現の事態であり、後件 B に「のに」を用いて「本来はそうであるべきである」という含みを持たせることが多い。

次の例も、〈比較：許容範囲内〉の例である。この場合も、前件 A は既実現の事態であり、後件 B に対しては「なんで」「なぜ」「どうして」のような疑問詞で「しなかった」ことに対する疑念が述べられている。前田(2015)が「③反語」とする例も、後件が「本来はそうであるべきである」という実現していないことを表す〈比較：許容範囲内〉の例である。

- (65) 「バカヤロー！死んでから泣いて謝るくらいなら、なんで生きているときにもっと優しくしてやらなかった。もっとも、医院で火葬して骨は宅配便で送ってくれて言った家族もあつたんだから、あんたは来ただけましかもな。せめて、優しく葬ってやりなよ」(神谷恵『家郷』)

- (66) PKO 法が成立した直後、河本派参院議員の石原健太郎は自民党に対して離党届を出し、国民の喝采を浴びた。この時、「自民党を飛び出すくらいなら、なぜ PKO 協力法審議中に体を張って反対しなかったのか」といった非難が、一方で石原に投げかけられた。

(本澤二郎『裏から見た自民党派閥』)

- (67) ところで戦争に関して、この頃一般で申すそうだが、この戦争は私が止めさせたので終わった。それが出来たくらいなら、なぜ開戦前に戦争を阻止しなかったのかという議論であるが、なるほどこの疑問には一応の筋は立っているようにみえる。(保阪正康『IN POCKET(月刊[文庫情報誌])』)

- (68) ジェミーは息子の養育のために、生活基盤をニューヨークから移すことはできなかったし、キャパはどちらかといえば、パリを主体に考えていた。ジェミーと結婚できるくらいなら、どうしてバグマンとそうしなかったのか。しかも相変わらず世界のあちこちを移動し、ホテル住まいで家などなく、稼いだ金はすぐギャンブルで使ってしまうような一文無しだ。

(加藤哲郎『戦争写真家ロバート・キャパ』)

〈比較：許容範囲内〉は、先の〈比較：許容範囲外〉と同じく、「通常だったらこうなる。しかし、与えられた条件のもとではそれが否定される」ということを述べている。

〈比較：許容範囲外〉の「A くらいなら B」の場合は、前件 A がより望ましくないこととして否定されているが、〈比較：許容範囲内〉では、相手が A を選択するのを非難し、むしろ後件 B の方がより望ましいと思ひ、提案あるいは勧告をしている。

例えば、(63)で述べられているのは次のようなことである。通常「謝る」ことはあっても「改める」ことまではしないものである。しかし、問題の件の場合は、話し手は「謝る」ことまでするなら、むしろさらに一歩進んで「改める」ほうがよいと思っている。

この場合も、先の〈比較：許容範囲外〉の場合と同じように、「くらい」を除いてもほぼ同じ意味を表すことができる。

(63') 謝るなら(いっそのこと)改めればいいのに。

(63')の文を論理式で書くと次のようになる。

(69) 謝る→改める
 = ~謝る ∨ 改める
 = ~ (謝る ∧ ~改める)

通常は「謝る」ことはしても「改める」ことまではしないものである(謝る ∧ ~改める)。しかし、問題の件の場合はそれが否定され、「~ (謝る ∧ ~改める)」すなわち「謝る→改める」となり、「改める」ことも許容範囲内に入ってくる。これが(63')で述べていることである。(63)のように「くらいなら」の形で条件を述べた場合は、「くらい」は聞き手が「謝る」を選択することに対する否定的な評価を述べるために用いられている。

(64)も次のことを述べている。通常は「おまけが入っている」のであれば「送料サービスなど還元」まではいかないものである(おまけが入っている ∧ ~送料サービスなど還元)。しかし、「いかないおまけ」になるとそれが否定され、「~ (いかないおまけが入っている ∧ ~送料サービスなど還元)」すなわち「いかないおまけが入っている→送料サービスなど還元」となり、「送料サービスなど還元」も許容範囲に入ってくる。

4.4 「くらいなら」の意味用法のまとめ

以上、「くらいなら」の意味用法について考察した。まとめれば、「くらいなら」の用法は、「程度なら/ほどの…なら」と置き換えられるか、「より」と置き換えられるか否かを基準として、大きく〈程度〉と〈比較〉の二種に分けられる。そして、〈程度〉、〈比較〉は、それぞれ〈予想範囲内/予想範囲外〉、〈許容範囲内/許容範囲外〉の二つに細分

することができる。

〈程度〉用法においては、先行する事態の程度が予想範囲内か予想範囲外かは、後件との意味関係によって決まる。〈比較〉用法の「A くらいなら B」では、A がより望ましくないもの（許容範囲外）として述べられる場合と、B がより望ましいもの（許容範囲内）として述べられる場合とがある。いずれも「通常だったら『 $A \wedge \sim B$ 』となる。しかし、与えられた条件のもとではそれが否定されて『 $\sim (A \wedge \sim B) = A \rightarrow B$ 』となる」ということが述べられる。

5. 〈程度化〉と〈評価〉

前節の考察をふまえ、本節では、「くらいなら」における「くらい」の役割について考える。

「くらいなら」の「くらい」は、形式的には形式名詞であり、用言句を名詞化する機能を持つ。一方、意味的には、それぞれの用法において、「くらいなら」の「くらい」は次のような形で事態の〈程度〉を述べるために用いられている。

〈程度：予想範囲内〉の「A くらいなら B」の「くらい」は、「程度」と同じく、事態 A が持つ程度的な属性を述べるために用いられている。

〈程度：予想範囲外〉の「A くらいなら B」の「くらい」は、その場で問題にされていることがら事態 A が真となる程度に達していることを表す。

〈比較：許容範囲外〉の「A くらいなら B」の「くらい」は、事態を望ましきのスケールに位置づけ、A をより望ましくないものとして捉え、A に対する否定的な評価を述べるために用いられている。

〈比較：許容範囲内〉の「A くらいなら B」の「くらい」は、事態を望ましきのスケールに位置づけ、B をより望ましいものとして捉え、A に対する否定的な評価を述べるために用いられている。

〈程度〉用法の「くらい」は、文字通り〈程度〉を表すために「くらい」が用いられている。これに対し、〈比較〉用法の「くらいなら」が A に対する否定的な評価を表すのは、事態そのものではなく、事態を〈程度〉のスケールに位置づけることにより、一種の「間接化」をおこなっていると考えられる。

森山(1997)は、(70)のような「たり」を「冗談用法」と呼ぶ。

(70) うどんにマヨネーズをかけたりして。

(森山 1997 : 60)

森山(1997)は、(70)について次のように述べている。

「うどんにマヨネーズをかける」ことだけを取り上げて問題にするのではない。あくまでも状況全体に対してその一部の事態として言う意味であって、それが、いわば「よりによって～」という、極端な事態の在り方を一例として提示することになるのである。こう考えれば、ここでの「冗談」とは、極端な異常事態を例示・想定することとして位置付けられよう。

(森山 1997 : 60 - 61)

〈比較〉用法の「A くらいなら B」が持つ否定的な評価に近い意味は、(71') (72') の「A したりするなら B」でも生ずる。

(71) わしはあんな建物で暮らすくらいなら、野宿するぞ。(= (27))

(71') わしはあんな建物で暮らしたりするなら、野宿するぞ。

(72) 謝るくらいなら改めればいいのに。(= (28))

(72') 謝ったりするなら改めればいいのに。

「たり」を用いた場合は、極端な事態を一例として提示することにより、否定的な評価の意味が生まれる。「A くらいなら B」では、「くらい」を用いることにより、前件 A で取り上げられている事態の属性に注目することが表され、同じ属性を持つ集合の中で最も極端な例をあげていることから否定的な評価の意味が生まれると考えられる。

6. まとめ

本稿では、形式名詞「くらい」と条件表現「なら」が複合した「くらいなら」の意味用法を分類し、その構文的特徴、「くらい」との意味的關係について考察してきた。以上の議論から、次のような結果をまとめることができる。

まず、「くらいなら」の意味的用法を分類した結果、「くらいなら」には大きく〈程度〉〈比較〉の二種の用法があり、それぞれ「予想範囲内/予想範囲外」、「許容範囲内/許容範囲外」の二つに細分することができる。

また、「くらいなら」における「くらい」は、形式的には形式名詞であり、用言句を名詞化する機能を持つ。一方、意味的には、それぞれの用法において、次の表 4 が示すように、異なる形で事態の〈程度〉を述べるために用いられている。

表4 「くらいなら」における「くらい」の役割

用法		「くらい」の役割
〈程度〉	①予想範囲内	事態 A が持つ程度的な属性を述べる。(低程度)
	②予想範囲外	問題にされていることがらが事態 A の程度に達している程度を表す。(高程度)
〈比較〉	③許容範囲外	A に対する否定的評価。(A がより望ましくないこととして否定されている)
	④許容範囲内	A に対する否定的評価。(相手が A を選択するのを否定し、 B の方がより望ましいとする)

〈程度〉用法の「くらいなら」は、文字通り〈程度〉を表すために「くらい」が用いられている。これに対し、〈比較〉用法の「くらいなら」が A に対する否定的な評価を表すのは、事態そのものではなく、事態の〈程度〉を問題にすることにより、一種の「間接化」をおこなっていると考えられる。

付記

本稿は、2016 年に麗澤大学大学院言語教育研究科に提出した修士論文『〈程度〉を表す形式名詞の接続助詞的用法の一考察』の一部(第 3 章『くらいなら』)を大幅に改稿したものである。

参考文献

- 奥津敬一郎(1986)「程度の形式副詞」、奥津・沼田・杉本『日本語助詞の研究』、pp.66 - 67、凡人社
- 田中寛(2010)『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房
- 沼田善子(1986)「とりたて詞各論」、奥津・沼田・杉本『日本語助詞の研究』、pp.209 - 213、凡人社
- 前田直子(2015)「現代日本語の複合的条件形式—『くらいなら』を中心に—」日中対照言語学会、高千穂大学、2015年5月17日
- 森山卓郎(1997)「「うどんにマヨネーズかけたりして」—並立の意味」『月刊言語』第 26 巻第 2 号、pp.56 - 61、大修館書店

